

第 53 回戦争体験文庫資料展示

聯隊区司令部



期間：2019 年 9 月 18 日～20 年 2 月 27 日

解 説

『奈良聯隊写真帖』という本があります。これは、奈良に兵舎を置いた明治末～大正期の歩兵第五十三聯隊（連隊）、昭和期の歩兵第三十八聯隊等が、海外へ派遣された際の写真を主に扱っています。ここでいう「奈良聯隊」とはあくまでも通称で、歩兵第～聯隊が正式名称になります。

しかし、こうした実戦部隊である聯隊とは別に、部隊の正式名称に奈良を冠した部隊がありました。それが「奈良聯隊区司令部」です。聯隊区司令部とは「師団長ニ隷シ徴兵事務及召集事務ヲ掌ル」もので（明治29年勅令第56号聯隊区司令部条例）、大正12年の改正では、これに加え「在郷軍人ノ服役及召集」「在郷將校団」「在郷軍人会」に関する事務を任務としています（大正12年勅令第267号）。しかし、実際には、表紙の写真（山下孝二『大和大観』1915より）に見える3つの看板が左から「帝国在郷軍人会奈良支部」「奈良聯隊区將校団」「奈良聯隊区司令部」とあるように、改正以前から、司令部は郷軍や將校団と密接な関係を持っていたことがわかります。

聯隊区司令部は、数千人の兵員を擁する歩兵聯隊とは違い、わずかに数十名（『大和人名鑑』1911で15名）の人員からなる非常に小さな組織ですが、司令官は佐官とされ、奈良に見る場合多くは歩兵聯隊長と同じ階級である大佐が就任していました（1-T9-33『徴兵ニ関スル書類』等）。一部に聯隊区司令官は軍人によって、引退前の最終ポストと記すものもありますが（WEB 航空軍事用語辞典）、そうしたケースばかりではありません。聯隊区司令官から聯隊長に転出する例もあり、例えば、田路朝一大佐は、奈良聯隊区司令官から歩兵第三十八聯隊長に異動となって、満州警備に出征し（「告別の辞」『大和錦』323、1935）、後には旅団長に任じられています。

聯隊区司令官の地位が、部下の少なさに比べて高かったのはなぜでしょうか。推察になりますが、直接指揮下の將兵を統率すればよい聯隊長と異なって、聯隊区司令官は、市町村やそれを監督する立場にある郡や県といった、軍の外にある機構、軍の言葉で言えば「地方」の機構を使いこなす必要があったために、一種の權威が必要だったからと思われます。

特にこれは徴兵事務に顕著です。直接、入隊前の国民の個人情報を持っているのは市町村役場で、その全面的な協力がなければ、徴兵は不可能でした。検査の猶予や免除を巡って解釈のブレを防ぐため、聯隊区司令部は、市町村や郡市の兵事行政担当者を集めて、しばしば「兵事主任協議会」といった会合を持っていたのが、奈良県庁文書1-M41-27『明治四十一年以降復命書』等からうかがえます。実際の徴兵検査は、1頁の写真のように、市町村ごと、約3ヶ月にわたって行われていました。

徴兵検査で、徴兵する側が特に気にしたのは、受検者つまり兵士予備軍の体格や病気でした。2、3頁の医官による「奈良聯隊区徴兵検査報告」や、同種の資料が奈良県庁文書1-T9-33『徴兵ニ関スル書類』等に収められています。

赤紙で知られる「召集」は、いったん軍隊生活を送った経験を持ち、軍隊外で生業に就いている在郷軍人（予備役、後備役の將兵）を、戦時に再び動員するシステムです。こうした在郷軍人には、定例的に訓練を行う必要があり、1頁下の写真のように、部隊や階級によって、その日時が決められていました。

在郷軍人のなかから、將校つまり少尉以上の階級を持つ者で組織されたのが、予備役後備役の「將校団」です。残存する奈良聯隊区將校団の機関誌『將校団報』の記事を本図録6、7頁にまとめましたが、これを見ると、將校団内部で作成した記事よりも、中央の陸軍將校親睦団体である偕行社等から提供を受けたと思われる記事が目立ちます。28号の「統帥権ニ就テ」には、タイトルの下に「本記事ハ偕行社記事八月号ニ掲載セラレタルモノナルニ同記事講読団員少キヲ以テ茲ニ転載ス」とあります。

また、帝国在郷軍人会では、町村単位での「分会」での行事が活発（奈良分会機関紙『大和錦』各号、ウェブ公開している第26回展示でも紹介）なのに対して、よりメンバーが少ない將校団の場合、都市単位での活動が推奨されたことが、『將校団報』26号掲載の「団報」でわかります。これによると、「現に郡市將校会を組織して居るものは磯城郡、宇陀郡、吉野郡、かつては組織したものの有名無実になってしまい再興を図っているのが奈良市、山辺郡、生駒郡としています。

こうしたシステムは、あくまで、国家が戦時に民衆を動員するために作られたものですが、システムを通じて形成されたネットワークを、「下から」利用した者もいました。当時の官界の公認学説であった天皇機関説を「不敬」だと排撃する運動の先頭に立ち、美濃部達吉を刑事告発したことで有名な奈良県選出代議士、江藤源九郎もその一人です。江藤は歩兵第三十八聯隊長で職業軍人生活を終えた後、その経歴を活かして、奈良県からの政界進出を試みます。当館で所蔵する奈良聯隊区の『將校団報』7号分のうち、6号分は予備役將校だった上田義太郎が所蔵していたものですが、上田は、『將校団報』や將校団からの通知とともに、江藤源九郎が「日本民衆党」を組織した際のビラ等をつづり込んでいます（8、9頁）。国体尊重の無産政党という触れ込みで江藤の組織した「日本民衆党」は、一時的、個人的な政党で終わり、江藤自身も昭和3、5年の衆議院選挙では落選しています。しかし、在郷軍人会等を地盤に、県内からまんべんなく票を集め、以後4回の選挙で当選を遂げています。

一般、状況

奈良聯隊區徴兵検査報告

六日次 自昭和十三年四月十九日
至昭和十三年七月六日 七十九日間

検査官

徴兵醫官

陸軍軍醫大尉 一谷亨

徴兵副醫官

陸軍軍醫中尉 土井澄

徴兵署事務員

陸軍衛生曹長 宮下利市

検査人員 六一一九名

種別	人員
本籍者壯丁	五、六〇五
入寄留者	二、一一二
合要條志願者	二、〇二二
總計	六、一一九

昭和十三年度奈良聯隊區徴兵検査報告

徴兵醫官陸軍軍醫大尉 一谷亨

セ
10083
187

モノ一〇三名ニシテ前年度ノ一四六名ニ比シ四三名ヲ減少セリ
而シテトラホームニ依リ體格等位ヲ判定セラレタルモノハ
第一種三七名第二種二三名丙種二三名丁種一四名ナリ
本籍壯丁ノ花柳病患者總數ハ二〇一名(三六%)ニシテ
昨年、八九名(五%)ニ比シ實ニ一一二名増加ヲ示シ割合比
於テ二、四倍ニ相當シ眞ニ憂慮スヘキ重大問題ナリトス
花柳病ノ爲體格等位ヲ下位ニ判定セルモノナシ
既往三箇年間ニ於ケル花柳病患者比較左表ノ如シ(百令比)

年次	第一種	第二種	丙種	丁種	平均
昭和十一年	二、五	二、七	二、二	一、六	三、三
昭和十二年	二、〇	一、一	一、四	〇、九	一、八
昭和十三年	四、八	二、八	三、五	二、九	四、八

又トラホーム豫防ハ各徴募區毎ニ概ネ本年一、二月、候ニ
於テ豫備検査ヲ行ヒ其治療ヲ督促シ奈良縣
當局ニ於テ多發町村ニ治療所ヲ設置シ之ヲ絶
滅ニ關シ努力ヲ傾注シツ、アルモ各人ノ治療不徹
底ニ流ル、モノ甚カラス多クハ形式的ニシテ治療
ヲ永續セス或ハ賣藥ノ効能ヲ過信シ之カ使用ニテ
満足セル等治療ニ意ヲ用ヒサル者多シ
花柳病亦全縣下ヲ通シ恐ルヘキ多發ノ狀況ニアルヲ
以テ壯丁豫備検査ノ際花柳病ノ検査ヲモ行ヒ之カ
治療ヲ督促シ且豫防ニ就テハ充分注意ヲ喚起ス
ル如クナシツ、アルモ之亦治療ヲ徹底セス賣藥等ヲ
使用セルノモノ多ク尚非常時青年トシテ寒心ニ堪ヘ

「徴兵検査報告」。管内の徴兵検査成績が詳細なデータともに示されている。病気の中でも特にトラホームと花柳病（性病）を軍は忌避した。

都市農山漁村ニ於ケル壯丁体格比較表

昭和十三年度

奈良縣隊區

七
10083
188

市町名	戸数	甲種	乙種	丙種	丁種	戊種	合計
高取町	2,524	11	14	1	5	1	32
敏達町	8,046	17	13	1	3	1	35
今井町	2,638	7	5	1	1	1	15
奉天市	28,764	1	1	1	1	1	5
大浜市	11,644	1	1	1	1	1	5
札場市	7,293	1	1	1	1	1	5
福井市	42,484	1	1	1	1	1	5
福島市	47,324	1	1	1	1	1	5
沼津市	16,735	1	1	1	1	1	5
豊橋市	16,735	1	1	1	1	1	5
彦根市	16,735	1	1	1	1	1	5
岐阜市	16,735	1	1	1	1	1	5
市町名	合計	71	57	7	20	7	152

市町名	戸数	甲種	乙種	丙種	丁種	戊種	合計
高取町	2,524	11	14	1	5	1	32
敏達町	8,046	17	13	1	3	1	35
今井町	2,638	7	5	1	1	1	15
奉天市	28,764	1	1	1	1	1	5
大浜市	11,644	1	1	1	1	1	5
札場市	7,293	1	1	1	1	1	5
福井市	42,484	1	1	1	1	1	5
福島市	47,324	1	1	1	1	1	5
沼津市	16,735	1	1	1	1	1	5
豊橋市	16,735	1	1	1	1	1	5
彦根市	16,735	1	1	1	1	1	5
岐阜市	16,735	1	1	1	1	1	5
市町名	合計	71	57	7	20	7	152

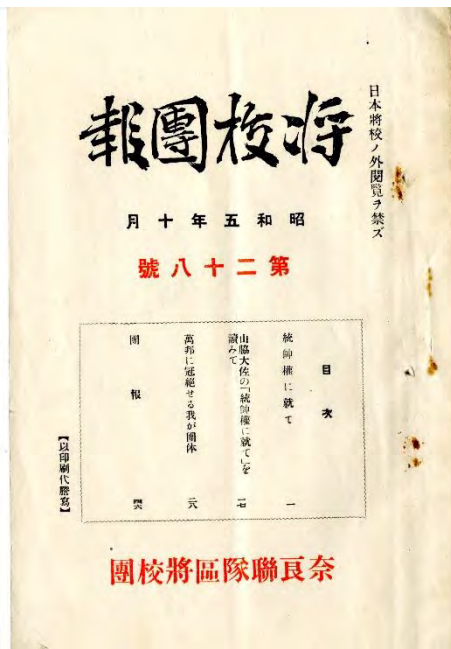
「本表中都市町人口ハ昭和十三年十月一日現在ハ内閣統計局ニ依ル國勢調査ニ依リ計上ス。

市町名	戸数	甲種	乙種	丙種	丁種	戊種	合計
山形村	2,524	11	14	1	5	1	32
農村	2,524	11	14	1	5	1	32
計	5,048	22	28	2	10	2	64

市町名	戸数	甲種	乙種	丙種	丁種	戊種	合計
龍門村	2,524	11	14	1	5	1	32
中龍門村	2,524	11	14	1	5	1	32
上龍門村	2,524	11	14	1	5	1	32
高見村	2,524	11	14	1	5	1	32
四郎村	2,524	11	14	1	5	1	32
丹生村	2,524	11	14	1	5	1	32
黒瀬村	2,524	11	14	1	5	1	32
秋野村	2,524	11	14	1	5	1	32
市町名	合計	71	57	7	20	7	152

市町村ごとに、体格等位（徴兵検査合格種別）平均身長体重胸囲を算出し、市町村の類別ごとに合計をしている。

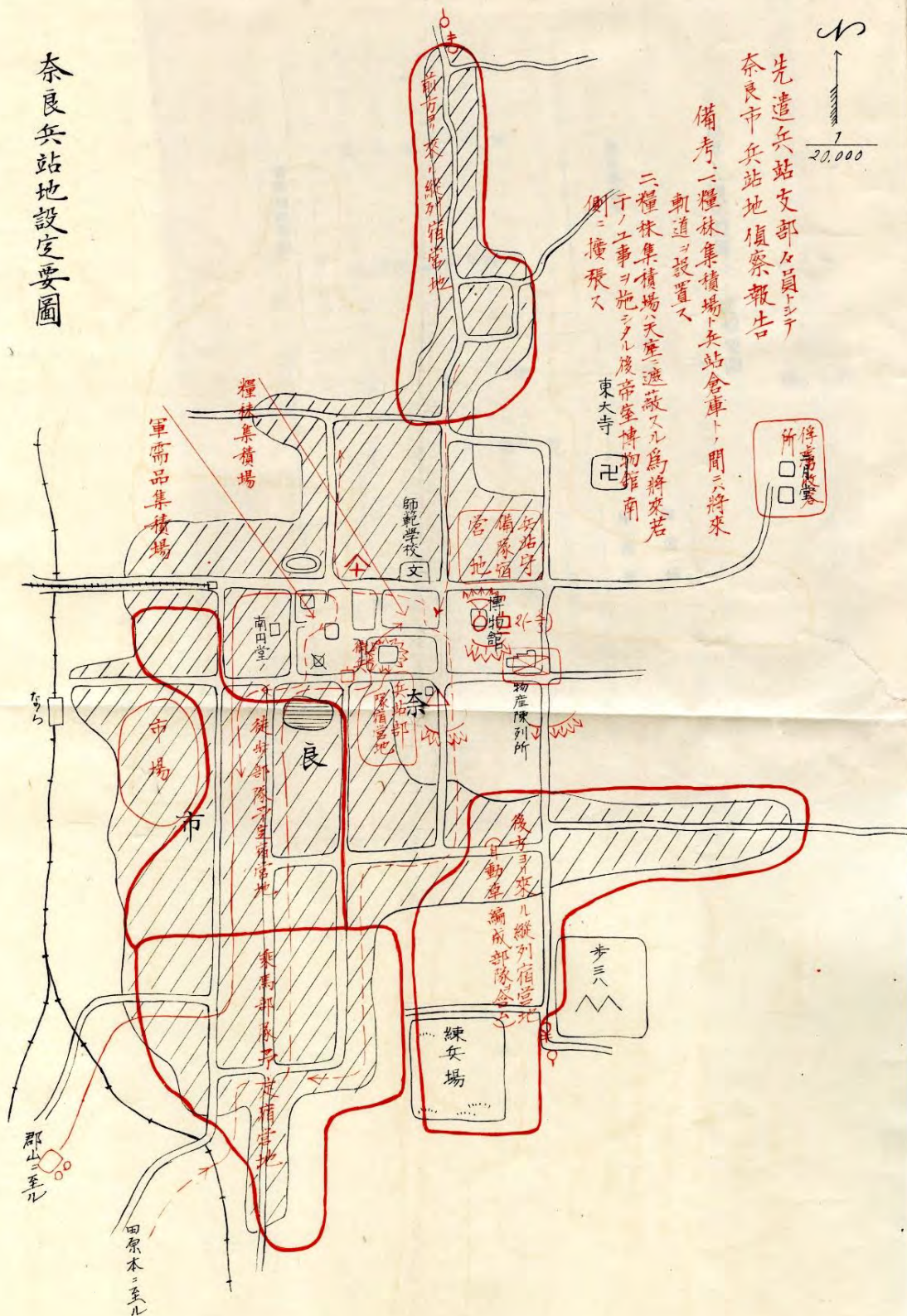
都市数が多いのは、上のように他府県に本籍を持ち、奈良県内に寄留して県内で検査を受けた者が含まれるため。一般に農山村の兵士は強壮とされていたが、確かに農村・山村の甲種合格比率は、都市・町に比べ5パーセント程度高い。



上は「帝国在郷(軍人会)御所町分(会)」とある旗を脇にしての記念撮影(上、吉原家文書 93-2-7)

下は同奈良分会の機関紙『大和錦』と、奈良聯隊区機関誌『将校団報』

奈良兵站地設定要圖



和歌山方面から交戦しつつ北進する第十六師団に、御所－奈良－河内長野近辺で補給を行うという想定で演習が行われた。その際の奈良附近での兵站部（補給部隊）の設定案。（奈良聯隊区『将校団報』22、1929より）

奈良聯隊区『将校団報』各号内容

(45号のみふるさと書庫資料、他は戦体非図書上田義太郎資料)

タイトルの●は『偕行社記事』からの転載と明記があるもの

20号 昭和4.4

頁	執筆者	タイトル	内容
1	[文部大臣?]	御聖徳を拝し奉りて	昭和三年十二月十五日大札奉祝諸団体御親閲学生、青年団員などを対象とした昭和天皇による親閲が行われるようになった経緯と当日の景況、参加者の感想
12		課題作業	第一大戦開始時ドイツ、ポーランドの戦史と戦訓について。物質的威力で欧米列強を凌駕するのは当分不可能、我特有の精神力で圧倒する必要があるとする
21	歩兵三八より	満州駐筈について	長春及び鉄嶺に派遣される予定、同地の状況など
26	奈良聯隊区司令部	昭和四年度徴兵検査市町村日割表	
29		同 勤務演習教育召集予定期日	部隊、階級ごとに
30		同 勤務演習教育召集標準年次表	教育召集の回数等を示す
32		団報	団員異同、満鮮視察旅行告知、在郷将校海外在留の際の手続き説明、予算

22号 昭和4.8

頁	執筆者	タイトル	内容
1		昭和四年度総動員演習の概要	6.24-7.3大阪府・京都府・兵庫県において「工業生産」「調達」「輸送」に分けて実施
12		兵站演習記事	上記演習の一部として
26		安州兵站地の防戦	日露戦時朝鮮半島における兵站地防衛戦の状況
29		満鮮視察旅行の通牒	慰問団と同行するが一部別行動
30	奈良聯隊区将校団長陸軍歩兵大佐 堀田千	在郷将校及び同相当官簡閲点呼参列ノ件通牒	
30		団報	団員昇進、茨城での大演習陪観者募集、団員や家族訃報、勤務演習教育召集予定期日表の修正

23号 昭和4.10

頁	執筆者	タイトル	内容
1	内閣総理大臣 浜口雄幸述	経済難局の打開に就て	緊縮財政、金輸出解禁による
12		労農露国籍軍の編成及極東に於ける兵備	満鉄調査部の発行資料を飯泉通訳官が抜粋紹介
18		欧州大戦に於けるNeufhateau付近独仏軍の遭遇戦	第一大戦開始時のドイツフランス軍の戦史
23		団報	団員異同、総会告知、県下で行われる秋季聯合演習見学の通牒

25号 昭和5.4

頁	執筆者	タイトル	内容
1		日露戦争梗概	「戦争の原因」から「講和」まで主な戦闘を該
9	一邦人の見聞談	最近に於ける極東蘇聯の真相	物資不足、共産党独裁を支えるゲペウのスパイ政治、
30	小松操	日露戦争外交秘話(偕行社記事より転載)	全権の人物評、小村全権の新聞政策忘却、交渉経過、美人スパイによる暗号符号
65		団報	新規任官者他団員異同、『偕行社記事』紙面改革、将校軍服改正通牒、将校団教育予定表、予決算

26号 昭和5.6

頁	執筆者	タイトル	内容
		口絵	団総会における染井中将遺筆／聯合支部評議会後の鹿寄せ
1		満洲里附近蘇支戦闘に就て	経過、戦術分析、赤化工作
17	陸軍少将伊藤政之助	従軍秘話	日露戦初期
22	陸軍外山学校 陸軍歩兵大尉 外園進	極東選手権競技大会に就て	明治末に始まった由来と各競技の経過
34		将校団演習会の近況	4/25戦時職務班、5/8機関銃隊要員班、5/24砲兵班、5/25兵站勤務に別れ実施
37		兵站勤務現地戦術記事	5/25奈良市付近で南進する敵を迎え撃った南軍を、丹波市付近で物資集積、補給するという想定で実施
41	野砲兵第二十二聯隊留守隊	戦闘綱要	
58		砲兵射撃教範改正要領	
61		陸軍服装規則中改正の件	
61		文部省界最第六回中等学校数学教員養成講習実施並出願手続要	
63		嗚呼染井中将	第十六留守師団長の訃報
64		団報	団員異動、不幸、規約改正、郡市将校会の現状と奨励、入団寄付金の返還

28号 昭和5.10

頁	執筆者	タイトル	内容
		昭和五年度奈良聯隊区将校団総会次第	京都駅前に集合し舞鶴要塞を見学
1	陸軍歩兵少佐 山脇正隆	統帥権に就て●	ロンドン条約の問題に鑑み主な学説を紹介
17	〇生(吾々青年 将校とあり)	山脇大佐『統帥権に就て』を読み ●	
18	閨生(当時横浜 在住の学生)	関東大震災の満七年を迎へて	
28	教育総監部	万国に冠絶せる我が国体	軍人勅諭との関係、思想問題、偏頗な愛国とは異なる、教育の重要性
46		団報	団員の異動、前聯隊区司令官の転居
	奈良聯隊区司令部	奈良聯隊区	青年訓練所教練査閲日割り表

45号 昭和9.1

頁	執筆者	タイトル	内容
		新年ノ辞	
1	関東軍参謀部	満州国を中心とする日満蘇の情勢	長い国境を挟み理念も異なる満蘇両国は緊迫を孕み油断できぬが、すぐに戦争がはじまるほどではない
		蘇連邦武力戦準備の進展	五年計画は重工業偏重で軍事力も強大化、余録としてこれに関する陸海人民委員ウォロシーロフの演説抜粋
19		支那満疆に対する蘇連邦の策動	
28		時局兵備充実の急務	
39	関東軍参謀部	満州特別農業移民の現況	佳木斯付近。在郷軍人で組織した武装移民
47	天津益世報	海州築港事業の現状	
50	[奈良聯隊区]教育主任	将校団教育ニツキテ	
51		彙報	郡ごと、兵科ごとの演習を3回開催、団員異動
		昭和九年度奈良聯隊区将校団教育計画	



江藤肖像。左は歩兵第五十三聯隊長だった大正末期のもの（『奈良聯隊写真帖』1980より）で、右は初当選した昭和7年ころのもの（渡辺一正『普選第三回政戦のあと』1933、普選徹底会より）。

江藤新平の甥として明治12年(1879)年生。32年陸軍士官学校を卒業し、大正13年奈良にあった歩兵第五十三聯隊長となる。宇垣軍縮による同聯隊廃止後も、京都から移った歩兵第三十八聯隊長に横滑りし、昭和2年に、少将進級・予備役に編入される（『日本陸海軍総合事典』）。国会では、機関説排撃の他に、傷痕軍人の問題等に取り組む。

江藤得票

『衆議院議員選挙の実績』公明選挙連盟、1967より

16回衆議院選挙 昭和3.2.20

立候補11名中9位で落選、最下位当選の約半分の約5万8千票

17回衆議院選挙 昭和5.5.20

9名中6位、最下位当選に5千票余に迫った約9万票

18回衆議院選挙 昭和7.2.20

約22万票を得てトップ当選、2位に6万票差

19回昭和衆議院選挙 11.2.20

約19万票で連続トップ当選、2位に5万票差

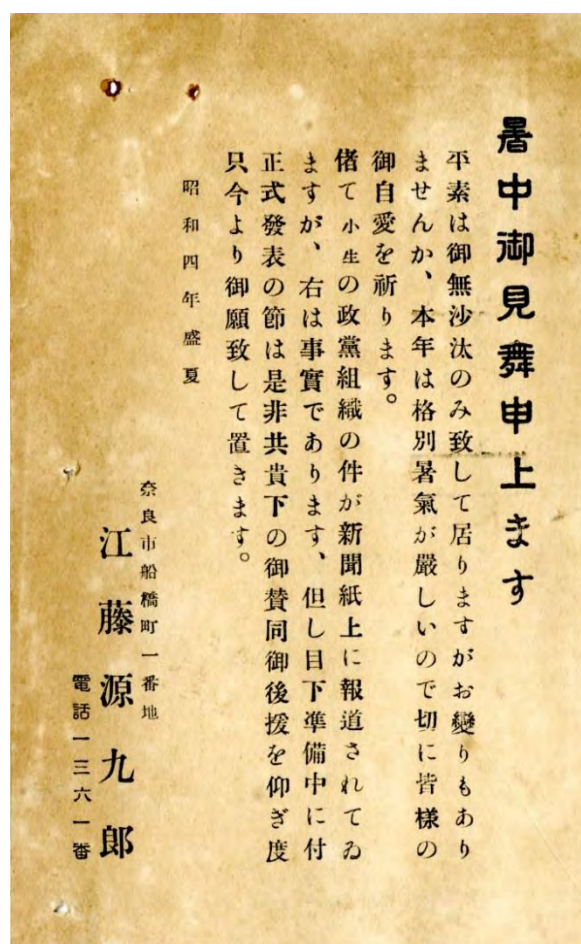
20回衆議院選挙 昭和12.4.30

約17万票でトップ当選、2位に3万票差

21回衆議院選挙 昭和17.4.30

約13万票を得て第3位当選、他の4名の当選者はすべて翼賛政治協議会推薦候補

9頁の同党宣言は「右」「左」を併存させた、戦前期の「革新」色が強く反映されており興味深い



日本民衆党宣言、綱領、政策、党則

本部 奈良市船橋町壱番地

電話一三六一

宣 言

一

政治の要諦は、一言にして尽くせば、国民生活の安定にありと信す。然るに我国従来政治は露骨に云へば、一部職業政治家たる党人の、政権獲得の闘争に過ぎず、源平の戦と殆ど選ぶ所がない。近時漸く生活の為の政治なる思想が発達し来りたれど、併し尚ほ国民全体の生活でなく、資本主義組織に於ける特権階級の生活の為の政治であつて、国民の大多数を占むる無産階級、勤労階級の生活に就ては顧慮する処極めて少ない。斯の如きは決して新時代の政治でないと思ふ。吾等は固より自己の階級の利害のみを主張し、国民の他の部分の利害を無視せんとするものではないが、今日迄経済的に虐げられ、政治的に無視された無産勤労階級の利害の為の政治こそ、結局国民全体の為の最良の政治であり得ることを確信する。従つて吾等は、かの地主や商工資本家の金力に依つて支持せられ、無産勤労階級に眞の同情なき既成政党と、大に戦はざるを得ない。

二

斯の如く、吾等は他の無産党と、共同の戦線に立つて、特権階級と戦ふのであるが、併し半面に於て、他の無産党と相容れざる所があるかも知れぬ。夫れは何故かと云ふに、我が国体に対する認識の相違である。今日存在せる無産党の各派には、夫々特色があるが、その内極左派と称せらるゝ者の如きは、明らかに我が歴史を無視して、国体を変更し、範を露国の革命家に仰がんとする矯激の思想を抱き、中間派と称さるゝ者も亦、皇室を以て特権階級の中心の如く誤解し、我が国体の精華が、一君万民、一視同仁、即ち皇室の常に念し給ふ処は、民衆全体の幸福であつて、一部特権階級の利害に非ず、彼等の放恣驕慢を打破して、無産勤

労階級本位の政治を行ふことこそ、眞に皇室の眞意を体する所以なるを忘れて居る。而して自ら右翼と称する者も亦、我が国情や習慣を重視せず、欧州流の社会思想をその俛鶻呑みにして、之を採用せんとするの憾みになきに非ず。眞理は固より一なれど、其の實際に於る適用は、国々の実情に由て自ら異ならなければならぬ。吾等は我が国に於る、最も合理的なる社会運動は、国体尊重の無産運動ならざる可らざるを確信す。是れ即ち吾等が、特権階級の支持する既成政党に対しては、他の無産政党と共同戦線を張るに躊躇せざるに拘はらず、国体尊重の一点に於て、吾等の主張に反する者と戦はざるを得ざる所以である。

三、四【略】

綱 領

一 吾等は我が国体を尊重すると俱に、世界の大勢、時代の要求に順応して、立憲政治を完成し、以て明治維新の宏謨を顕揚し国運の進展を期す

二 吾等は現時の施策は、少数の有産階級本位に偏重し、国民の大多数を占める無産勤労階級の利害を無視する者多きを認め、合法的手段に由り、之が改革を期す。

三 吾等は現在の行政、財政、および税制を根本的に整理改革して国民負担の軽減を期す。

四 吾等は労使の合理的共存共栄を基調とし、科学的改良法に依り、農産物其他産業の産額を増加し、以て生活費の低下を図ると同時に、貿易の振興、海外の経済的发展を策して、国富の増進を期す。

五 吾等主として有産階級の利害を代表する既成政党、並びに国体を尊重せざる左傾的無産階級を排す。

政策【略】

党則【略】

展示図書

請求記号	書名	著者名	出版者	出版年	所在
393.25-ヨシム	徴兵令徴兵事務條例徴兵事務條例施行細則：全 増補訂正 (類聚公布全書:號外)	吉村庄八編輯	明新社	1892.6	書庫1
393.25-1900	陸海軍徴兵の検査	音尾己之助編	丸山舎	1912.3	書庫1
370-0000	在郷軍人の栞：陸軍簡閲點呼必携	帝國在郷軍人会 京都支部編	京都聯隊區司令部	1933.8	書庫1
390.7-1200	在郷軍人須知 改訂縮刷 昭和九年度		武楊社出版部	1933.8	書庫1
390-0000	在郷軍人心得拔萃 (諸兵:13)	教育總監部編纂	軍人会館圖書部	1941.10	書庫1
380.8-13-8	兵士 (近代民衆の記録:8)	大浜徹也編	新人物往来社	1978.10	書庫1
081-10-143	徴兵制 (岩波新書:黄-143)	大江志乃夫著	岩波書店	1981.1	書庫1
391.2-7	徴兵令制定史 増補版	松下芳男著	五月書房	1981.4	書庫1
391.2-12	村と戦争：兵事係の証言	黒田俊雄編	桂書房	1988.12	書庫1
391.2-15	徴兵制と近代日本：1868-1945	加藤陽子著	吉川弘文館	1996.10	書庫1
391.2-17	徴兵・戦争と民衆	喜多村理子著	吉川弘文館	1999.6	書庫1
210.6-216-10	戦争と軍隊 (近代日本文化論:10)	[佐藤忠男ほか執筆]	岩波書店	1999.8	一般資料
393.25-フシイ	在郷軍人会：良兵良民から赤紙・玉碎へ	藤井忠俊著	岩波書店	2009.11	書庫1
392.1-カワニ	せめぎあう地域と軍隊：「末端」「周縁」軍都・高田の模索 (戦争の経験を問う)	河西英通著	岩波書店	2010.2	書庫1
393.25-ヨシタ	赤紙と徴兵：105歳最後の兵事係の証言から	吉田敏浩著	彩流社	2011.8	一般資料
392.1-チイキ	地域のなかの軍隊 1.北海道・東北 2.関東 3.中部 4.近畿 5.中国・四国 6.九州・沖縄 7.植民地 8.基礎知識編 9.地域社会編		吉川弘文館	2014-2015	一般資料
393.6-コハヤ	総力戦体制の正体	小林啓治著	柏書房	2016.6	
210.69-28	大正期「革新」派の成立 (塙選書:82)	伊藤隆著	塙書房	1978.12	
913.6-1341	天皇機関説	尾崎士郎著	文藝春秋新社	1951.10	書庫1
323.131-1-1	天皇機関説事件：史料は語る 上,下	宮沢俊義著	有斐閣	1970	書庫1
080-チクマ	最新研究で見る戦争への道 (ちくま新書:1136. 昭和史講義:[1])	筒井清忠編	筑摩書房	2015.7	書庫1
080-シユウ	「天皇機関説」事件 (集英社新書:0878D)	山崎雅弘著	集英社	2017.4	一般資料
308-ミノタ	蓑田胸喜全集 1.2.初期論集 3.学術維新原理日本 4.学術維新 5.国家と大学 6.国防哲学 7.原理日本	[蓑田胸喜著]	柏書房	2004.11	書庫1
121.6-ウエム	「日本」への問いをめぐる闘争：京都学派と原理日本社 (パルマケイア叢書:22)	植村和秀著	柏書房	2007.12	一般資料

2019年9月

奈良県立図書情報館編・発行